

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

わかるから楽しい学習指導のあり方（算数科の指導を通して）

1 研究の概要

(1) 児童・生徒の実態と課題

「全国学力・学習状況調査標準化得点」から、全国学力・学習状況調査において基礎的な事項の習得に課題があることがわかる。特に算数において顕著である。

「平成28年度全国学力・学習状況調査算数Aにおける四分位数による階層分布」の分析から、全国に比べてA層が薄くD層が厚い分布になっていることがわかった。原因は習熟が不足していることと、併せて習得も十分ではないからだと考えられる。

(2) 学力向上のための取組について

本校の児童の実態から、以下の2点を目指して取り組んでいる。

- 学力向上対策は算数(数と計算)に重点をおく。→
- C層やD層の児童の力を伸ばす授業を行う。

練習量が確保しやすく、できた実感を持たせやすいことや、児童の変容が検証しやすい。

① わかりやすい授業づくり

新たにユニバーサルデザインの視点を授業に取り入れることにした。その1つは、板書やノート指導等の学習の流れを校内で統一し、その流れが児童にもわかりやすいよう共通の掲示物を作成したことである。

他にも、「練習時間の確保」に取り組んでいる。簡単な問題から徐々に難しい内容の問題を準備し、用意した解答を児童が自ら採点することで練習時間を確保した。これにより、児童がすぐに自己評価できるので、次への意欲を持たせることにつながった。自分のペースで進めるので、無駄な時間がなく、併せて、教師も机間指導が十分にできるようになった。これらにより、**わかる授業→わかるから楽しい授業のあり方**について研究を深め、学力向上へつなげたいと考えている。

② きめ細かな指導

本校では、少人数指導教員、スタッフ、学習サポーターをティーム・ティーチングのT2として活用している。今年度は、どのクラスもまずは一斉授業の中で成果を上げることを目指す。その中で、特にC層やD層の児童を補助するためにティーム・ティーチングとしてスタッフ等を配置している。習熟度別クラスより、きめ細かに個別対応ができるようになり、児童の学習に対する「あきらめない姿勢」と「できた実感」を育てている。



算数授業における TT 指導

③ 梨の子ぐんぐん算数プリント

昨年度末に、学校として統一した算数の計算分野に特化したステップ学習教材を作成し、朝学習や宿題などで活用している。もし、各自が問題を解くのに困難な際には、自分のつまずいた所から学年をさかのぼって復習することもできる。進度は、チェックカードによって本人も担任も把握することができる。丸つけには保護者ボランティアに入っただくことで、児童が意欲的に取り組む姿勢が見られるようになってきている。その理由であるが、採点者が多いことにより、すぐに評価をしてもらえ、たくさんの大人に褒められたり励ましの声をかけられたりして、モチベーションが上がるからである。



朝学習の保護者ボランティアによる丸つけ

④ 家庭学習トライやるウィーク

児童に家庭学習の習慣化を図ることを目的に、学期に数回、トライやるウィークを実施している。1週間設定し、日々の学習の取組時間や内容、感想を児童と保護者がワークシートに記入する。保護者も子どもの取組に関心が高まってきている。

(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用について

算数を中心とする授業のサポート体制を次のようにしている。

- 1・2年・・・市スタッフによる学習・生活サポート
- 3・4年・・・学習サポーターによる授業サポート
- 5・6年・・・少人数指導教員による授業サポート



どの学年も個別指導が充実してきた。

2 今後の課題について

これらの成果を高めていくために、今後も引き続き、以上のことに取り組んでいき、

- ・全国学力・学習状況調査
- ・校内学力テスト
- ・トライやるウィークのワークシート
- ・梨の子ぐんぐん算数プリントのチェック表
- ・授業観察



これらを指標として、児童の変容を把握していく。